

4-(1)-⑰ 産学官連携

本学は地元自治体(山形県・山形市)が学校法人与大学を新たに設置する「公設民営」方式により設立された大学であるという経緯もあり、芸術・デザイン系大学としては全国に先駆けて開学当初より積極的に地域や企業との連携に取り組んできています。

産学連携オフィスである「共創デザイン室」及び「文化財保存修復研究センター」など、学内の研究機関には年間 100 件を超える相談があり、約 60 件の受託研究に結びついています。芸術・デザインという教育研究の特色を生かし、東北地域になくてはならない大学としての存在感をますます高めています。

■共創デザイン室(HP:<http://gs.tuad.ac.jp/kyoso/>)

産学官連携窓口となっている共創デザイン室は、産業界や地域の様々な課題に対して、複数の専門分野が連携して総合的な力で成果を生むプロジェクトも迅速に展開できるようになっており、東北復興支援機構やアートプロジェクトとともに社会貢献の一翼を担っています。

1 受託研究事業

産学連携を中心とした地域との連携に関する窓口として年間を通じて相談業務を実施しており、平成 27 年度の相談件数は 122 件、そのうち受託研究に結びついたものが 43 件、委託研究費の総額は約 3,900 万円。平成 26 年度と比較すると受託件数としては 6 件の増加となっています。

2 教育と産業界との橋渡し

デザイン工学部の教育方針である「産学連携、地域プロジェクトなどの積極的導入によるリアリティのある実践」を側面から支援。平成 27 年度は次のプロジェクトにおいて企業との覚書締結等側面支援を実施しています。

- ・ ダイハツ工業株式会社:2020 年に向けたエコスマールモビリティ
- ・ 株式会社東海理化:ジェスチャーで車内空間を快適にする
- ・ 株式会社エスパック:ダンボールを主素材にした想像力と創造力を育てる知育教材の開発
- ・ 株式会社ニューテックシンセイ:木製レゴ「モクロック」を活用したステーションナリーの開発
- ・ コールマンジャパン株式会社:新しい色とかたちのデザイン提案
- ・ アルプス電気株式会社:ユースケースを想定した使い易いインターフェース・デザイン
- ・ テクノクオーツ株式会社:石英を使用したインテリア空間の提案

3 地域企業との交流活動

地域の産業と芸術・デザインとの橋渡しのため、企業や行政等関係機関とも積極的に連携しています。

平成 24 年 10 月に創設したデザイン相談ネットワーク「D-Link」(山形県、NPO 法人山形県デザインネットワーク及び本学共創デザイン室)においては、月 1 回の定例会を開催し、各機関との情報交換を行い県内企業のデザインによる産業振興を目指しております。同年 11 月から 12 月にかけては、優れたデザインの県産製品を選定・顕彰する山形エクセレントデザイン受賞製品の展示をメ

インに、県内のデザイナー情報や東北芸術工科大学の産学連携プロジェクトの展示などを同時に行う「山形エクセレントデザイン展」をやまがた藝術学舎で開催し、子どもから大人まで多くの来場者を迎えました。

平成 24年度から始まった「山形県デザイン共創促進事業」は4年目を迎え、これまでに県内 20社以上と連携し、さまざまなデザイン提案を行なってきました。その成果として、新製品の開発はもとより、毎年の卒業制作に対する企業からの支援、さらには卒業生の新たな就職先確保にも繋がっています。

ほかにも以下のような団体等にも積極的に参画することで地域の動向やニーズの把握、大学情報の発信等に努めています。

- ・ 株式会社山形銀行との包括連携協定に基づく地域支援活動
- ・ 東北ニュービジネス協議会
- ・ むらやまインダストリー倶楽部(事務局:山形県村山総合支庁)
- ・ プラットフォームやまがた連絡協議会(事務局:山形県企業振興公社)
- ・ 雪みらい推進機構(事務局:山形県村山総合支庁)
- ・ 仙台クリエイティブ・クラスター・コンソーシアム(事務局:仙台市経済局)

4 知的財産保護等への取り組み

学生や教員による創作に関する知的財産保護等への取り組みも重視しており、平成 22 年度からは、独立行政法人 工業所有権情報・研修館による「広域大学知的財産アドバイザー」事業に参画。連携大学との情報交換などを実施しながら知的財産保護等のための体制づくり及び諸規程の見直し等に取り組んでいます。